

特別展「幕末日本と徳川齊昭」

江戸時代後半の19世紀、わが国は大きな転換点を迎つつありました。対外的には東アジアへの欧米諸国の進出、国内的には幕府、各藩の財政難や身分秩序の弛緩をあげることができます。

文政12年(1829)、水戸藩第9代藩主となった徳川齊昭は、まず藩レベルでこうした問題の克服を図っていきました。「水戸藩の天保改革」と称された一連の改革は、行財政にとどまらず、教育、軍事にまでわたる大きなスケールで展開され、幕府の天保改革にも示唆を与えたといわれています。

そして、嘉永6年(1853)のペリー来航は、彼を「攘夷の旗頭」として、水戸藩という枠を超え幕末日本の命運を握る人物の一人に押し上げていきます。条約締結や將軍継嗣問題など、日本が抱えていた困難な政治課題の解決が託されたのでした。齊昭もそうした期待に応えるべく積極的に行動していましたが、課題解決の方法をめぐって大老井伊直弼と厳しく対立、それが安政の大獄、そして桜田門外の変へとつながっていきます。そうした騒然とした世相の中、万延元年(1860)に齊昭は61年の生涯を終えます。

本展示では、幕末という時代背景のなかに齊昭の生涯を位置づけ、その歴史に果たした役割を考えたいと思います。

藩主として 改革への挑戦

齊昭が水戸藩主に就任したころの時代背景と齊昭が進めた藩政改革を紹介します。見所は、まず藩の上屋敷の小石川邸(東京ドーム周辺)と中屋敷の駒込邸(東大本郷キャンパス周辺)の跡から、近年発掘された当時の藩士の生活を物語る品々、そして「弥生時代」の語源ともなった齊昭の「向岡記」碑文の拓本です。ともに初公開となります。

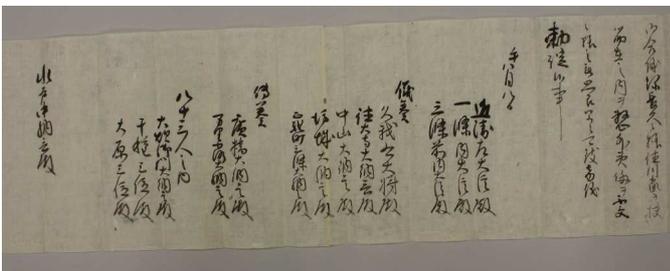


三つ葉葵紋付鬼瓦(文京ふるさと歴史館蔵)

つぎに藩政改革の中でも、軍事演習として行った追鳥狩関係の陣太鼓や旗などの資料が見所です。また、縦1.5メートル、横3メートルという巨大な偕楽園の絵図は圧巻です。

幕末日本の中で 「攘夷」の旗頭として

ペリー来航以降、幕府政治に深くかかわるようになった齊昭の姿を紹介します。とくに井伊直弼との関わりを国の重要文化財に指定されている「井伊家文書」から描きます。また、「桜田門外の変」の一部始終を描いた絵巻、激闘の跡が残る彦根藩士の脇差などを紹介します。天璋院や島津斉彬など齊昭と関わった人物の肖像画や写真も展示します。

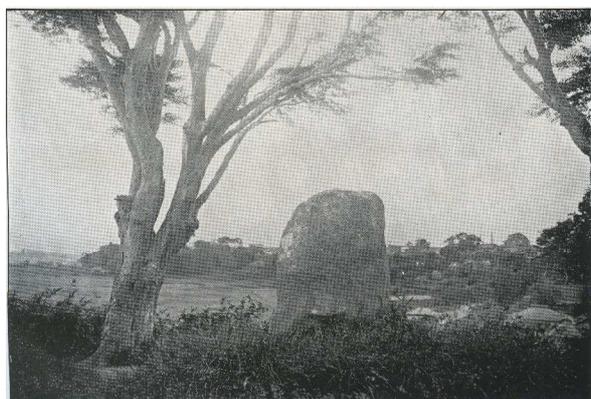


勅諭(戊午の密勅)之写(部分)(彦根城博物館蔵)

夫として父として

最後に、家庭人としての斉昭の姿、またその子供たちをゆかりの品々を通して紹介します。七郎磨（のちの慶喜）にあてた書状集、幕末から明治にかけて撮影された子女の肖像写真などが見所です。

**斉昭6女松姫が、盛岡藩主南部利剛に嫁ぐにあたり
斉昭が利剛に贈った笛（岩手県立博物館蔵）**



水戸八景「太田落雁」(100年前の風景)



斉昭とその時代がよくわかるガイドブック（図録）を刊行！（販売価格 1,000 円）

展示品の写真と詳しい解説のほか、「水戸八景」など展示で触れられなかった斉昭の事績の写真も掲載。資料として天保年間の水戸藩士のうち 1,100 人の名前と禄高も収録しました。

気鋭の研究者による講演会を開催！（各日とも 14 時から 16 時）

井伊直弼と大奥，それぞれの研究の第一人者をお招きしました。広い視野から斬新な視点でのお話が聴けることと思います。

10月25日（土）母利美和氏（京都女子大学教授）「徳川斉昭と井伊直弼 対立の構造と真意」

11月9日（日）畑尚子氏（江戸東京博物館学芸員・國學院大學講師）「幕末の大奥 斉昭と天璋院」

展示を掘り下げる「斉昭ミニ講座」と展示解説（各日とも担当は学芸部首席研究員永井博）

より展示内容を深めたい方のために、展示と合わせてお聴き下さい。

・斉昭ミニ講座（各日とも 14 時から 15 時）

10月13日（月）斉昭時代の水戸藩邸と藩制

10月18日（土）正志斎と東湖

11月15日（土）斉昭の妻・側室・子女

11月22日（土）斉昭・慶喜父子の食と養生

・展示解説 10月12, 19, 26日 11月2, 8, 16, 23日（各日 11 時・14 時から）

ご注意

講演会、斉昭ミニ講座につきましては先着 200 名様とさせていただきます。各日とも正午より整理券を配付いたします。また、展示解説は入館券が必要となります。

映像で見る新たな弘道館の姿（2階ギャラリー）

常磐大学水嶋研究室制作の「弘道館アーカイブズ」を展示、上映します。何回も見学された方でも見落としがちな弘道館の姿が分ることでしょう。